

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

平成23年度 第50回 大会報告 (釧路市)

北海道博物館大会も50回を迎えました。つぎの半世紀の第一歩を踏み出す今年の大会は、6月30、31日の日程で、釧路市生涯学習センターまなぼとと幣舞において、当協会と釧路市、釧路市教育委員会、日本博物館協会北海道支部の主催で、開催されました。協会員の参加は83名、またシンポジウム参加者は市民も含め109名でした。

大会のテーマは、『つなげる・つながる博物館』。博物館における「連携」のあり方を検証するとともに、あらためて博物館施設、関係団体、地域住民などとの連携をとおして、博物館の今後の活動について考えようというのが、その目的でした。

日本博物館協会からの特別報告では、今年度より日本博物館協会専務理事に就任された半田昌之氏(たばこと塩の博物館学芸部長)が、自らの博物館経験を踏まえた報告がありました。

シンポジウムでは、釧路市副市長の小松正明氏の特別講演のあと、3名のパネリストを含む4名の方からの興味深い報告があり、それについて活発な議論がありました。

小松副市長は、生涯学習の町としてしられる静岡県掛川市の助役として、同市の生涯学習プログラムを推進してこられた方です。生涯学習につい



マリン・トポスに隣接するセリ・入札場を見学

て、行政の立場からの実践例は興味深く、参考になったのではないのでしょうか。

つづくシンポジウムでは、科学館の実践例として小笠原忍氏が、自然史博物館の例として平林結実氏が、巡回展の例として高尾戸美氏が、また釧路市の小学校での実践例として釜范洋子氏からの報告がありました。ボランティアや市民との活動、NPOなどグループとの協働、学校での実践例など、興味深い事例だったとおもいます。

つづく第2日目の見学会では、釧路市水産資料展示室「マリン・トポスくしろ」と鳥取百年記念館を訪問しました。マリン・トポスくしろは市内浜町の漁港施設内くしろ水産センターにあります。ここでは日本有数の漁港である釧路港の歴史や現状の展示とともに隣接するセリ・入札場も見学。

また、鳥取県からの土族移住者によって1891年に建立された鳥取神社の境内にある鳥取百年記念館では、開拓当時の生活具のほか、鳥取県の池田家から寄贈された同家ゆかりの品々などを見学しました。

ポスターセッションでは、澤村寛氏「化石体験ミニ発掘」、中岡利泰氏「襟裳岬草原のレールは何を語ってくれるか?」、宇仁義和氏「イギリスの博物館支援組織」のほか、釜范洋子氏から釧路市城山小学校での博物館を利用した実践例の報告がありました。



シンポジウムの討論風景

(北海道博物館協会事務局長 出利葉浩司)



夏休みの試み

今年の夏休み期間中は、「サケと人々の暮らし展」を開催しました。

これは昨年10月、社会教育課で実施した「サケ学講座」の際、郷土資料館としてサケとまちの歴史について紹介したことにはじまります。これをそのまま展示してはどうかとの案が浮上し、パネル展示を行うことになりました。市内を流れる川「漁川(いざりがわ)」は、アイヌ語の「サケが産卵するところ」の意味を持ちます。かつては多くのサケが上り、江戸～明治期にはサケ漁や運搬業務に携わる人々が遠路この地に出稼ぎにやってきていたほどであったと伝えられます。今では想像がつかないほどサケの良好な漁場だったそうです。そんな往時の勢いを感じていただければとの思いから漁川とサケを取り上げてみました。縄文時代の遺跡から発見されたサケの歯・骨の他、サケの剥製や皮製品などとともに暫し、まちを流れる漁川とサケを結びつけていただけたようです。

さて、子供たちはというと夏休みではありますが資料館にはなかなか足が向かないようでした。そこで今年は全く発想を変えて、まずは「見に来る」前の「足を運ん



化石レプリカづくりの参加者

でもらえる」よう策を考案し、勾玉づくり、化石レプリカづくり、昔のあそび体験コーナー等これまで単発で実施していた事業に新しくスタンプラリーやスケッチコンクールを加え、夏休みに集中させてみることにしました。こちらはボランティアの存在がたいへん大きな原動力となりました。そのため交通アクセスが悪く、子供たちが自力で来るには限界のある当館では珍しく大勢の子供たちで賑わいました。そして、ほんの少しですがサケを垣間見てくれたようです。まだ課題は山積みですが見に来てもらえる資料館を目指して次は冬休みに向けて試みが始まります。

(恵庭市郷土資料館 学芸員 大林千春)



五稜郭・箱館奉行所と縄文文化交流センター

函館市では、近年、新しい博物館施設が相次いで開館しています。昨年7月には、道内唯一の国の特別史跡である五稜郭跡に、箱館奉行所が復元されました。総事業費約28億円となる文化庁補助による総合的な史跡整備によるもので、発掘調査や文献資料の分析に基づいて復元された奉行所庁舎の建設だけではなく、石垣の保存修理や園路・広場の整備等の環境整備も行い、築造当時の五稜郭の姿が現代に再現されました。

箱館奉行所は、開館から1年で入館者約33万人を数え、函館市の新たな観光拠点としてだけでなく、幕末を体験・体感できる場として広く活用されることが期



復元された箱館奉行所

待されます。

また、現在、世界文化遺産登録をめざしている「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の構成遺跡となっている史跡大船遺跡や、今年国の史跡に指定された垣ノ島遺跡、国宝中空土偶が出土した著保内野遺跡など、縄文遺跡の宝庫として全国的に知られている南茅部地域において、今年10月、函館市縄文文化交流センターが開館します。



国宝「中空土偶」

北海道唯一の国宝「中空土偶」を常設展示する登録博物館となるもので、道の駅「縄文ロマンみなみかやべ」が併設され、過疎化がすすむ地域の活性化の起爆剤として注目されています。さらに、西部地区では、ここ数年、伝統的建造物や景観形成指定建築物の解体が相次ぐ中、一時は解体の恐れもあった明治末期の建物である旧相馬邸が、民間業者により改修され、公開されています。

こうした新たな博物館施設の開館により、函館の新しい一面が知られていくことで、地域文化に対する理解が一層深まって行くことが期待されます。

(市立函館博物館 学芸担当主査 野村祐一)



ニンテンドーDS i による 音声ガイド導入顛末

8月5日(金)から17日(水)まで、総合交流促進施設元陣屋で特別展「海辺の鳥たち」を開催しました。北海道近海に生息する海鳥の剥製を展示し、その生態を解説するという企画だったのですが、今回はじめての試みとして、「携帯ゲーム機を持参すると展示している海鳥の鳴き声が聞ける」体験展示を導入してみました。使用したのは任天堂の「ニンテンドーDS i」2台とダウンロードソフト「じぶんでつくるニンテンドーDSガイド(無料)」です。2台のDS iに音声解説と写真のデータを入力し、配信モードにして設置すると、来場者が持ち込んだDSでこの解説データをダウンロードして視聴することができます。

音声ガイドには来場者が事前に音声データをダウンロードしたiPodなどの携帯音楽プレイヤーを持参するタイプのもの、あらかじめ音声データを入れたプレイヤーを会場で貸し出すもの等が既に行われていますが、DS iによる配信も新江島水族館や京都文化博物館などで徐々に導入されてきているようです。DSの場合は所持している子どもの数も多く操作も親しみやすいため、今回「DSを持って遊びにおいでよ」と呼びかけたところ少なからず反響がありました。事前ダウンロー



ニンテンドーDS iによる音声ガイド

ド形式ではサイトへのアクセスやデータのダウンロード、音声データの入力など、利用者がある程度機器の操作に慣れていなければ敷居の高い部分もありますが、携帯ゲーム機による現地配信の場合だと万人にとって扱いが容易であるという利点が大きいと思います。難点としては音声や画像に外部からデータを入力できないため、音声データに関しては直接DS iに向かって話しかけ録音する、写真データはわざわざ内蔵のカメラで撮影し直さなければならないという作業が発生します。

相対的に捉えると、コストパフォーマンスの良さ、来場者の接しやすさという面では、導入してみる価値は十分にあると思います。

(増毛町教育委員会文化振興係 学芸員 小野卓也)



平成23年度日胆地区博物館等連絡協議会 総会・研修会の開催

5月26、27日に平成23年度日胆地区博物館等連絡協議会総会・研修会が新冠町で開催されました。

1日目はレ・コード館を会場に、19名の参加者で総会が行われ、前年度事業の事業・決算報告、今年度の事業・予算協議について審議されました。その中で、今年度はミュージアムマネジメント研修会が様似町で開催されることから、日胆地区各館が協力し実施していくことを意思統一しました。また、役員改選では、新会長に平取町立二風谷アイヌ文化博物館の松澤浩館長が選任され、新たな役員体制が決定しました。

その後研修会に入り、まず講演として新冠郷土文化研究会副会長の大下謙二氏より、「新冠130年の歴史」と題してお話をいただきました。開催町の新冠は、今年でちょうど開町130年を迎えており、明治14年に戸長役場が設置されてからの歴史をわかりやすく教えていただきました。講演の後は、レ・コード館のミュージアム、レ・コードホールを見学いたしました。レ・コード館は新冠の顔として全道から注目をされており、各種音楽事業や図書プラザ、科学工房、研修



レ・コード館での研修会の様子

室を備え、あらゆる活動が可能な施設となつています。ミュージアムなど博物館的な要素もあることから、私たち学芸職員にとっても参考になるべき事項も多々ありました。そして、この日の夜は青年の家で情報交換会を行い、各館の現状や課題を和気藹々の中で語り合いました。

2日目は、新冠における自然景勝地の象徴「判官館森林公園」で植物を中心とした観察会を行いました。道内有数の群生を誇る「オオバナノエンレイソウ」や、数が減少してきた希少種「サクラソウ」を観賞することができました。また、判官館に伝わるアイヌ伝説や歴史にもふれ、自然、民俗、歴史と多様な分野にふれることができた有意義なひとときでした。

今回の研修で得たこと、感じたことをぜひ各館で発揮していただきたいと思います。

(新冠町郷土資料館 学芸員 新川 剛生)



夜学講座 「アイヌ文化基礎知識講座」を開催

帯広百年記念館では、9月9～11日の3日間、アイヌ文化やアイヌ語の基礎を学ぶ「アイヌ文化基礎知識講座」を夜間の連続講座として開催しました。これは、夜の19時から20時30分まで、当館のアイヌ民族文化情報センター「リウカ」を会場として開催する「夜学講座」です。仕事や学校を終えた後に、気軽に、しかも短期集中でアイヌ文化の基礎を学ぶことが出来る試みで、今年は17名が参加しました。

会場となった「リウカ」には、アイヌ民族に関する書籍やDVD、アクリル封入標本などが多数設置され、日頃から来館者が自由に閲覧することができます。夜学講座では、これらの標本や、日頃は展示していない資料なども使用して、学芸員が基礎からわかりやすく解説しました。

初日はアイヌと野生生物との関係について解説。さまざまな狩猟の方式について、アイヌ風俗を描いた絵画を見たり、晩成社幹部の渡辺勝の日記を紹介しながら、解説されました。キツネ捕獲用に製作されたアイヌと全く同形の罟が、スウェーデンの博物館に彼の地の民俗資料として収蔵されている話、鮭を捕る道具「マレク」の正しい使い方などに、参加者は興味深く耳を傾けていました。

二日目はアイヌの食文化や、住居の様式、衣装について講義されました。野生植物を利用したアイヌの調理法、チセにおける座席の順序、文様の縫い方による衣装



実際に衣装に触れてアイヌ文化を学ぶ

の分類などを解説。木綿衣「ルウンペ」と「カパラミプ」の違いや文様の複雑な縫い目などを、実際に子供用のアイヌ衣装を直接手にとって確かめました。

三日目はアイヌの「カムイ」観について紹介の後、アイヌ語の初歩を講義。アイヌ語の文法(語順)が日本語に近いことや、アイヌ語をカタカナやアルファベットで表記する際の特徴を知った後、発音練習を行いました。

夜学講座は、夜の静かな時間、特定のテーマをゆっくりと学ぶ事が出来るもので、日中の博物館講座とはまた異なった独特の雰囲気があるものです。帯広百年記念館では、「リウカ」を活用して、今後も工夫を凝らしたさまざまな講座を開催していく予定です。

(帯広百年記念館 学芸員 伊藤彩子)



網走管内博物館連絡協議会 平成23年度前期研修報告

網走管内博物館連絡協議会の前期研修会が、7月30日(土)北網圏北見文化センターで開催された。内容は同センター美術企画展「パレットのある展覧会～巨匠たちの素顔と魅力～」のギャラリーツアーと、日動画廊の長谷川徳七社長、智恵子副社長の両氏をお迎えしての講演会「パレットと画家の秘密」で、会員や一般参加者58名が参加して行われた。

講演会では、長谷川両氏により国内、そして国際的に活躍した多くの画家との交流をとおして、培われた作品の裏側に隠れた魅力ある作家の人柄、魅力について語られた。営利や画廊と作家という関係を越えた、人としての付き合いから生まれた信頼関係があつてからこそ、作家の素晴らしさや愛着が生まれ、その作品の魅力が一層深まることを、多くの事例をとおして聴くことができ、予定とされていた時間は瞬く間に過ぎていった。

つづいて、企画展のギャラリーツアーを、同センター学芸員久保昌江氏により行われた。国内外の画家、36作家が描いた作品とパレットを合わせて展示することによって、巨匠たちの素顔と魅力に迫るという展覧会



講演会の様子

で、巨匠の作品と実際に使用されたパレットを見比べながら観ることにより、作品と作家の新たな側面を知ることができた。

今回の研修をとおして改めて感じたことは、芸術作品を鑑賞する上で必要なことは、技術もさることながら、作家本人の魅力、人生のストーリーを理解しないと、その作品の価値を半分も理解できず、それを少しでも知ることができると、その価値は数倍に跳ね上がることを実感した。それは美術資料にとどまらず、全ての資料にも言え、博物館としてのデータ収集、そしてそれを後世に引継ぐことの大切さを再認識した。

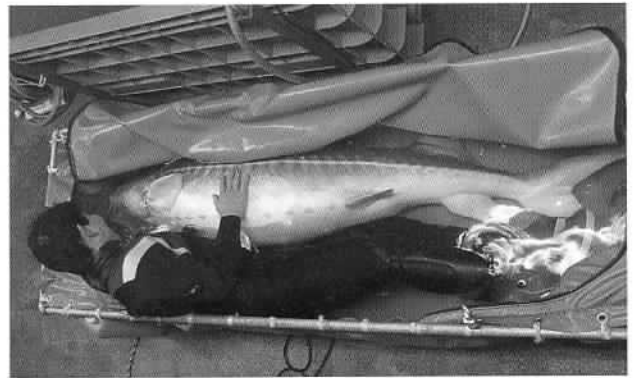
(紋別市立博物館 小番宗幸)



シロチョウザメの人工繁殖に成功

千歳サケのふるさと館は多くのお客様に支えられ、お陰様で今年開館18年目を迎えることができました。当館の展示生物は、メインテーマである「サケ」を筆頭に寿命が短いものが多いのですが、開館当時から今日まで生存している魚が一匹だけいます。大水槽を泳ぐメスのシロチョウザメ、愛称“ハクちゃん”がそうです。開館当時、5才で当館にやってきたハクちゃんも現在は22才。全長約2m、体重50kgほどにまで成長しました。先日、このシロチョウザメの人工繁殖に成功しました。シロチョウザメの繁殖は2008年から、北海道大学の足立教授と、美深チョウザメ館、そして当館の3機関連携で進めてきました。チョウザメの繁殖生態については産卵時期が春ということ以外、未だにほとんど分かっておらず、人工繁殖についても、その魚体の大きさだけでなく、卵が粘着卵である点や、成熟を促進させる水温コントロール、排卵・排精にはホルモン注射が必要など、技術的にも困難な点が多く、今回のシロチョウザメの人工繁殖は、北海道では初の成功事例となります。

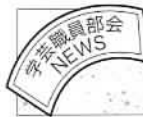
人工繁殖に当たっては、まずチョウザメを水槽から取り出し、麻酔の後でホルモン注射をして排卵を促し



シロチョウザメのハクちゃんと

ます。そして臨時の畜養槽に移動し、24時間後から腹部を圧迫し、排卵状況を確認します。でも、そう簡単に卵が出るわけではありません。卵が出なければ、3～4時間おきに再チェック。それを繰り返します。結局今回シロチョウザメの卵が採れ始めたのは、注射から40時間近く経った翌々日の朝5時でした。展示魚のオスからは精子がとれませんでした。事前に準備した凍結精子を利用して、無事授精させることができました。およそ1週間で孵化が始まり、3ヶ月を過ぎた現在では、5～6cmほどのミニチュアチョウザメに成長しました。次回はさらにふ化率を高め、安定した繁殖技術を確認していきたいと考えています。

(千歳サケのふるさと館 副館長 菊池基弘)



平成23年度北海道博物館協会学芸員部会 研修会及び総会の開催について

平成23年度の学芸員部会総会研修会は、9月8日(木)9日(金)余市町中央公民館で開催されることになりました。研修会テーマは、今後、部会員からの意見を集約し、役員会を経て決めていくこととなりますが、皆様のご参加をお待ちしております。

昨年度、釧路市立博物館での総会研修会では、事前に部会員にアンケート調査を実施しました。その結果は、道博協ニュース第100号に報告されています。ここでは学芸員の資質向上に関わる点について報告します。学会参加については50%が自費での参加、参加しないが19%でした。公費で調査研究費があるか質問したところ21%が公費ありと回答しました。また、調査研究への取り組みについては、充分取り組んでいると答えた人が2%、まあ取り組んでいる・努力不足と認識している人が27%という結果でした。この三点の回答から、公費で調査研究しても充分ではないと認識し、自費でも学会などに出席し、自己研鑽する学芸員像がみえてくるのではないのでしょうか。

道博協の大会や研修会への参加については、公費参加が58%、自費参加が14%という結果となりました。

所属する学会などについて質問したところ、自然史、歴史、考古学、博物館学、地域限定研究会など多様な分野の専門的な66学会があげられました。新しい学術的情報を入手し、活動に取り組んでいます。多様な人材が北海道にはあるのです。どう活かしていくか、我々の技量が問われるところでしょう。回答数は43施設52名でした。2人以上の学芸員を擁する施設は65%。学芸員の世代交代については、一人学芸員の施設の93%が世代交代できておらず、世代交代が順調と回答したのは学芸員数3人の3施設だけでした。自治体職員の削減、私立施設でも不景気の影響を受けているなど、学芸員の雇用を取り巻く現状はとて厳しく、それぞれの地域で培ってきた学術的な知恵や経験、人材、技術や資料が、将来に継承されるのが難しくなるのではないかと危惧されます。

平成23年4月より小中学校では新学習指導要領が本格的に導入され、博物館や資料館を活用した地域学習・体験学習なども明記されました。すでに学校教育との連携に取り組んでいる施設・学芸員もありますが、行政が博物館や資料館などを教育施設として捉え、学芸員を教育者として育成する体制の構築を望むばかりです。そして、学芸員も研究者であり教育者でもあるという自覚を高める必要があります。

(余市水産博物館 学芸員 浅野敏昭)



旭川市科学館・旭川市博物館 平成23年度特別展「ロボワールド」

旭川市科学館及び旭川市博物館では平成23年7月16日(土)から9月4日(日)までの51日間、特別展「ロボワールド」を開催いたしました。

今回の特別展では私たちの生活の中にロボットがどこまで普及してきており、そこに至るまでにどのような発展をしてきたのか、またそれを支える原動力となったものはなんなのかといった点を展示と関連イベントを通じて感じてもらうことを目的として開催いたしました。

まず、科学館会場では主にASIMOをはじめとした日本を代表するロボットの発展過程に関する展示や家庭用ロボットの操作体験、最新のロボット技術の学習装置など現在のロボット技術を体感してもらう内容、博物館会場ではからくり人形や昔ながらのロボット玩具など、懐かしさとともに昔から現在まで続くロボットに対する憧れや夢の原点を見ていただく展示としました。

また、関連イベントとしては新型ASIMOをはじめ、ムラタセイサク君®やムラタセイコちゃん®、MANOI



新型ASIMOデモンストレーション

ーGOなどの最先端ロボットのデモンストレーションを開催し、その動きやそれを作り出す技術の高さに驚かされ、展示と併せて市民の方々に現在のロボットの状況、その技術や仕組みなどについて知っていただく機会とすることができたように考えております。

最後に期間中に訪れた約24,000人の来場者の方、並びに本特別展に御協力いただいた関係者の方に、厚くお礼申し上げます。

(旭川市博物科学館 栗山隆広)



子ども美術体験事業 「ハロー!ミュージアム」

札幌芸術の森美術館では、平成20年度から子ども美術体験事業「ハロー!ミュージアム」を実施している。札幌市内の小学5年生を美術館に招待し、鑑賞や創作を行ってもらうというものであり、今年度は札幌市立小学校全208校のうちの8割近い159校約11,700人が参加している。

その発端は、市内の全小学6年生をクラシックコンサートに招く「キタラファーストコンサート」が好評であったことであり、その美術版として札幌市からの補助金を得てスタートしたものだ。早い時期に優れた芸術に接する機会を提供することにより、子どもたちに文化芸術を愛好する心情と豊かな情操を養うことを目的としているが、大人でも美術館に足を運んだことがない場合が多い現状において、この事業を継続することで美術館を経験した市民が増え、将来の来館者につながっていくものでもあるだろう。

しかし、「美術館はおもしろい所」「アートは楽しい」という印象をもってもらわなければ逆効果になってしまう。参加者数を誇るだけではなく、内容の充実を図ることが不可欠である。その

ため、学芸員のほか専用の職員やボランティアによる協力員を配置するとともに、教育委員会と連携し、授業の一環として取り組みながら、教師との協力のもと行っている。夏休みや冬休み、各種学校行事の関係で、各学校の来館時期は6~7月と9~10月に集中するが、次の3つのプログラムを用意し、選択制にすることで同時に受け入れをしながら調整している。

- A：佐藤忠良子どもアトリエで彫刻を鑑賞後に、友達の頭像を粘土で制作。
- B：美術館で展覧会を学芸員、協力員と鑑賞。鑑賞カードの記入、発表。
- C：野外美術館でボランティアと彫刻鑑賞。鑑賞カードの記入、発表。

来館前にスタッフが必ず学校に出向き事前学習を行うことも大きな特徴であろう。美術館でのマナーとして、「はしらない／さわらない／みている人のじゃまをしない」ことを、頭文字で「は・さ・み」と覚えてもらっている。また、近くで見たり遠くで見たりすることで発見し、感じたことを自由に言葉にすることで、決まった見方がないことも印象づけている。これらによって目的意識が明確になり、当日の姿勢向上に成果を生んでいる。

(札幌芸術の森美術館 副館長 吉崎元章)



平成23年度北海道博物館協会 ミュージアム・マネージメント 研修会の開催について

平成23年度北海道博物館協会ミュージアム・マネージメント研修会が10月27日(木)～28日(金)の両日、“アポイ岳ジオパークの町”様似町(ホテルアポイ山荘)で開催されます。

近年、博物館を取り巻く社会環境は大きく変化しており、利用者ニーズの多様化や高度化への対応、また予算や人員削減など様々な問題を抱えて運営してきましたが、3月11日に発生した未曾有の東日本大震災などの影響による観光客の減少は、博物館運営にとって大きな痛手となっています。

昨今、地域の自然や産業、くらし、歴史などを再評価し、観光資源として再構築を進める動きが出てきています。こうした動きにより新たな観光客の確保はもちろん、博物館の利用増加も期待できます。

テーマを「観光と魅力ある博物館づくり」とし、基調講演では、有珠山の噴火等、多くの災害を経験しながら、復興や観光の浮き沈みを肌で感じて、博物館を

長年経営してこられた三松正夫記念館館長 三松三朗氏にご講演をいただきます。

事例発表は、初めに地元様似町から「ジオパークを通じたエコミュージアムの取組み」と題して、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局の原田卓見氏。次に先日天皇陛下がご視察された際にご説明された白老アイヌ民族博物館の村木美幸氏に「アイヌ民族博物館の活動と観光」について、最後に「地球体験館シストとナイトツアー」と題して、穂別地球体験館の武藤麻紀子氏に発表をお願いします。集団討議やまとめが終わった後は、アポイ山荘にて様似町の海の幸山の幸を堪能しながら交流を深めていただきます。

二日目は、視察研修と言うことで、現在様似町が行っている様似町アポイ岳ジオパークのサイトをバスで巡り、世界で最も新鮮なマントル起源のかんらん岩等について説明をいただき午前中で解散いたします。

それぞれの館園活動の原動力や参考になるような研修会にしたいと考えておりますので、ちょっと交通の便が悪い地域ではありますが、ふるってご参加していただきますようご案内いたします。

(様似郷土館 学芸員 田中正人)

道博協ニュース 展示会・普及事業計画 (H23年11月～H24年3月)

- 札幌市青少年科学館 (011-892-5001)**
 11/4～6・11/18～20・11/25～27・12/23～25・1/13～15・1/27～29・2/10～12・2/24～26・3/2～4・3/23～25
 札幌市天文台夜間公開
 11/11・12・2/10・11 宇幕付プラネタリウム
 11/12・13・2/4・5 ちびっこワークショップ
 11/23・27(予定) 親子科学教室
 11/26・12/17・1/28・2/25・3/24
 科学館天体観望会
 11/26・1/28・2/25・3/17 サイエンジャー科学教室
 11/26・1/28 イブニングプラネタリウム
 11/26・2/25 大人の科学教室
 12/3 土曜工作
 12/17 プラネタリウムコンサート
 12/17・18・24・25 プラネタリウム祭り
 12/23～1/16 冬の特別展「宇宙展(仮)」
 12/25 開館30周年記念講演会～「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復飛行とそれを支えた力～
 1/5・6 サイエンジャー科学教室冬休み特別編
 1/7～15・1/14～18(予定) 冬休み工作会
 1/8・9 親子天文教室
 2/3・17・3/2・16 詳しく学ぶ天文講座
 2/9・23・3/8 大人の星空教室
 2/25・3/24 プラネタリウム夜間特別投影

- 札幌市円山動物園 (011-621-1426)**
 11/6・20 大人の日飼育係
 12/1～1/30 展示会「干支展」
 12/17～1/15 冬休みわくわくクイズラリー
 12/25・27 冬の日飼育係
 1月下旬～2月上旬 スノーシューで森を歩こう

- いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)**
 11/12・19・26 連続講座「石狩大学博物館」
 12/3 講演会「世界遺産と石狩市の歴史」
 12月下旬～3月下旬 展示会「資料館のお宝2012」

- 北海道開拓記念館 (011-898-0456)**
 11/3 文化の日講演会「北海道で見つかった竜の化石」
 11/12・26・12/10 古文書講座「古文書に親しむ 秋の陣(全3回)」

- 11/13 体験講座「自分の細胞からDNAを抽出してみよう」
 11/19 土曜こども講座「文字で遊ぶ!消しゴムはんこづくり」
 11/20 歴史講座「明治初期にアイヌ民族を襲った飢饉」
 11/27 開拓森林年記念講演会「野幌の森に暮らす生き物たち」
 12/11 特別企画「手すきでオリジナルの年賀状をつくろう!」
 12/17～3/18 第157回テーマ展「アンモナイト展」
 12/18 体験講座「記念館で新年祈願!日本画の画材で絵馬づくり」
 1/7 土曜こども講座「折りのしるし?絵馬づくりにチャレンジ」
 2/25 土曜こども講座「羊毛であつたか!イヤーマフをつくろう」
 3/3・17・31 古文書講座「古文書に親しむ はじめての古文書(全3回)」
 3/11 講座「ドングリからヒエー縄文人と古代人の植物食」

- 北海道立文学館 (011-511-7655)**
 11/5 わくわく子どもランド「音楽つき読み聞かせ」
 9/16～11/7 特別展「赤色エレジーから小梅の初恋～林静一展」
 11/19～1/15 常設展「プレミアム」森田たまの交友録一書簡にみる文学者たちの筆跡

- 11/27 映像作品鑑賞のついで「喜びも悲しみも幾年月」
 12/4 常設展「プレミアム」関連事業「文芸講演会」
 12/11 わくわく子どもランド「手作り教室・ツリーをつくろう!」
 12/23 わくわく子どもランド「絵本の読み聞かせなど」
 1/8 わくわく子どもランド「手作り教室・カルタをつくろう!」
 1/28～3/25 特別展「李叔成の文学」
 1/28 李叔成展関連事業「文芸講演会」
 2/4 わくわく子どもランド「絵本の読み聞かせなど」
 2/26 映像作品鑑賞のついで「伽椰子のために」
 3/3 わくわく子どもランド「絵本の読み聞かせなど」

- 北海道立近代美術館 (011-644-6881)**
 10/29～1/15 特別展「A★MUSE★LAND★TOMORROW 2012 in MIGINISHI Museum おぼけのマルと絵のふしぎ(会場 道立三岸好太郎美術館)」
 2/3～26 特別展「創立60周年記念 北海道銀行コレクション」
 2/3～3/11 常設展「これくしょん・ぎやらいり ヨーロッパ版画の巨人たち 花田和治の色と形」
 3/17～29 特別展「第5回北海道現代具象展」
 3/17～ 常設展「コレクションへの招待一名品100刊行記念展 新収蔵品展」

- 北海道大学総合博物館 (011-706-2658)**
 11/12 土曜市民セミナー「大陸から島へ:海洋通商と民族形成」
 12/10 土曜市民セミナー「クラーク博士と札幌の植物展示」
 2/11 土曜市民セミナー「松枝大治教授・天野哲也教授 退館記念講演」
 3/3～5/6 展示会「クラーク博士と札幌の植物」
 3/10 土曜市民セミナー「クラーク博士と札幌の地衣類」

- 渡島 市立函館博物館 (0138-23-5480)**
 11/12 わくわく科学教室「親子でイカを科学する」
 10/18～11/20 新収蔵資料展
 10/18～11/20 ロビー展「亀ヶ岡焼——戸広臣の世界」
 1/11・12 冬休み自由研究「手作りおもちゃで遊ぼう」
 1/13 わくわく科学教室「もしも原子が見えたなら」
 1/13 冬休み自由研究「さし絵に挑戦!」
 1/14 Jr.考古学ハカセ養成講座5「縄文の布ーあざん編みーでコースターを作ろう」

- 北海道立函館美術館 (0138-56-6311)**
 11/9・16・23・30・12/7 連続レクチャー「ちょっとオシャレにフランス美術」
 11/12 陶器コンサート「モンマルトルの桂下がり」
 11/19 美術映画「ロードレック～世紀末の目撃者」
 11/26 特別展セミナー「モンマルトルのプチ・トラン」
 12/3 美術映画会「マネ」「ロードレック」
 10/8～12/7 陶器のバリ・モンマルトル1880～1910
 12/17～3/20 道南美術の21世紀
 12/24 美術映画会「セザンヌ12歳の手紙」
 1/21 美術映画会「ジャクソン・ポロック」
 2/18 美術映画会「フランス・ペーロン」
 3/10 美術映画会「ボルタンスキーを探して」

- 後志 小樽市総合博物館 (0134-33-2523)**
 11/13～23 自由研究作品展展示
 10/1～11/27 展示会「北海道近代化の旗手ー明治の蒸気機関車」
 10/8～12/2 運河館・小さな企画展「すごろく 明治～昭和初期のコレクション」
 12/17～2/28 展示会「小樽の記憶 兵庫勝人写真展」
 1/7～9 冬だ!博物館へ行こう!
 1/14 青少年のための科学の祭典(冬)
 2月中旬 雪あかりの路開通行事
 2月中旬 星空観望会(雪あかり)
 3月上旬 博物館セミナー ひなまつり特別講演「和菓子の歴史」

- 黒松内町プラセンター (0136-72-4411)**
 1/28～29 かんじきブナウォッチング
 2/18 黒松内生物多様性保全奨励事業
 2/25～26 かんじきブナウォッチング

- 西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)**
 11/1 開館記念日 無料開放
 12/4 西村計雄命日 無料開放

1/4 お正月ダヨ! おやこでづくりたこあげ大会
2/25~3/11 第8回箱絵展
3/1~3/11 サンキューアートウィーク (特典実施)
10/20~3/11 開館12周年記念「渡島から60年-西村計雄 私のバリ」
3/15~7月 春から夏の展覧会「聴く-私の西村さん-」
3/15~7月 おやこで楽しむ展覧会「おさんぽ美術館」

【**室知**】

滝川市美術自然史館 (0125-23-0502)
11/2~8 展示会「児童生徒作品展」
11/19~1/29 展示会「ふるさとの画家 坪谷六郎展~地域の芸術文化とともに~」
11/19 「ふるさとの画家 坪谷六郎展」オープニングトーク
12/4 「ふるさとの画家 坪谷六郎展」絵画ワークショップ
1/12 化石レプリカを作ろう!
1/15 人物デッサン会
2/11~2/19 國學院大學北海道短期大学部「はる展」
2/12 人物デッサン会
3/4 人物デッサン会
3/14~3/18 北空知高等学校書道展

栗山町開拓記念館 (01237-2-6035)

11月~12月 展示会「版画に見る民具展」(仮称)
12月 親子もちつき
2月~3月 展示会「H21年22年 寄贈品展示」

【**上川**】

旭川市科学館「サイバル」(0166-31-3186)

11/3 秋の科学館まつり
11/3 お天気ひろば
11/12 先端科学移動大学2011
11/12~12/11 ミニ企画展「外来生物展」
1/7~8 科学探検ひろば2012

中原悱二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-52-0033)

10/22~1/31 収蔵品展「彫刻の生命~中原悱二郎没後90年~
兵象彫刻に打す心」
12月頃 こども彫刻教室

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

9/16~11/13 展示会「北海道立近代美術館コレクションの華 シャガール、バスキンとエコール・ド・パリの綺羅星たち」
11/20~2/12 展示会「生涯80周年記念 前部ビッキー・ポリヘドロンの世界」
2/18~4/8 展示会「ヴォヤージュ-風景の旅」
9/16~11/13 エコール・ド・パリ とまわカフェ
未定 (冬休み期間の某日) ウッディ★工作アトリエ2011冬
未定 (冬休み期間中) 冬休み工作市場

士別市立博物館 (0165-22-3320)

11/27~12/11 テーマ展「小中学校収蔵作品展」
12/18 講座「クリスマスレクチャー」
12/25~1/15 テーマ展「カレンダー展」
1/7~8 講座「お正月体験」
1/21 講座「しづれランド~雪と氷の実験」
2/5~3/4 テーマ展「ひなまつり展」
2/18 講座「米づくり体験~昔の手仕事へ」
3/3 講座「冬の自然観察会」
3/17 講座「宝石標本づくり」
3/25~4月 テーマ展「牧月香展」

名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

11/12 自然観察会「小さな自然観察クラブ」
10/7~11/13 企画展「藤倉英幸「北の風物語」第2章名寄展」
11/19~12/25 企画展「アイヌ語地名を歩く 山田香三の地名研究から」
12/10 自然観察会「小さな自然観察クラブ」
2/4~19 特別展「名寄の酒づくり」
2/25 イベント「雪あかりコンサート」

富良野市博物館 (0167-42-2407)

11/19~1/29 絵画展「どこか懐かしい風景」
2/25 講演会「アイヌ絵を語る」

【**網走**】

北網走北見文化センター (0157-23-6742)

11/19~12/18 展示会「N.P.blood21 vol.9 vol.10」
1/21~3/27 アートウォッチング(全8回)
2/18・19 道展北見移動展実技鑑賞講座

博物館網走監獄 (0152-45-2411)

11/3 監獄「沢庵漬」をつくろう
11/27 ニポポの森のリース作り体験
12/27 正月準備 鏡餅をつくろう
8/1~12/31 企画展「近代獄舎の誕生と建築家たち」
1/7 絵馬つくりと七草粥で無病息災
1/11 年中行事 鑑開き
1/29 雪と水でアート体験

2/3 年中行事 節分
2/19 初めての古文書解説教室
2/26 年中行事 雛祭り 和紙で雛人形つくり

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

11/1~12月中旬 原ひろ子写真展「カナダ・極北の先住民一半世紀前の記録から」
11/6 狩猟採集民から学ぶこと-カナダ・極北の先住民の文化と生活-
11/6 アイヌ文化講習会「アイヌの伝統料理-ユクオハウ(シカ肉の汁)ほか」
11/26 オホーツク文化の終わり頃
12/17 トナカイの話
1/9 フェルトでモンゴルのゲル(家)形小物入れをつくろう
1/14 サミのひもでキーホルダーをつくろう
2/4~4/8 企画展「ミニチュアである世界の台所事情」
2/4 講和とギャラリートーク「世界の台所事情」

北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)

11月上旬or中旬 ギザ映画会 詳細未定
12/1~28 JST巡回パネル展「ほうしやせんとわたしたち」(仮)
12/6~3/31 オホーツクの四季メモリアル写真展 第6弾
12月上旬 第47回オホーツク流水科学講座
1月上旬 オホーツク流水科学教室
1月上旬~2月中旬 冬のギザ祭り
1月下旬 ギザ映画会 詳細未定
2月上旬~中旬 JAはまなす青年部ポスター・絵コンテスト展
2月上旬~下旬 企画展(内容未定)
2月下旬 ホワイトコンサート
3月中旬~下旬 第21回オホーツクの四季写真展

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

11/12 番屋講座「ハッチで遊ぼう!」
12/3 手打ちそば講座
12/10 番屋講座「昔の遊びを皆で体験しよう!」
1/7 番屋講座「百人一首といはるカルタ」
2/4 番屋講座「お雑子を作ろう!」
2/4~3/4 企画展「コムケ湖の自然」
2/20 第18回「氷海の民」シンポジウム
3/10 番屋講座「昔なつかし街頭紙芝居と鉛筆工」
3/17~31 第8回「博物館サークル活動作品展」

【**旭川**】

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

11月 とんとん館寺子屋教室「干支づくり」体験学習会
12月 とんとん館寺子屋教室「しめ縄づくり」体験学習会
12月 とんとん館寺子屋教室「石臼によるもちつき」体験学習会

苫小牧市博物館 (0144-35-2550)

11/19 土曜ミュージアム「草木染をしてみよう」
11/26・12/3・2/25 博物館クラブ
12/17 土曜ミュージアム「蜜蝋でキャンドルづくり」
12/24・1/21・2/4 博物館大学講座
1/7 土曜ミュージアム「獅子舞人形づくり」
2/1~3/8 企画展「縄文の史跡を巡る」
2/4 土曜ミュージアム「ステンシルでカードづくり」

財団法人アイヌ民族博物館 (0144-82-4199)

11/13~1/15 展示会「マキリ展」
11月(予定) チプサンケ(船下し儀礼)
11月(予定) 秋のコタンノミ(集落の祈り)

【**日高**】

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

9/23~11/27 展示会「沙流川流域のチャシ跡」

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)

1/17~3/20 第18回特別展「沙流川流域の農村景観を眺める-文化的景観の魅力的な発信に向けて-」
2月 第18回特別展関連事業 博物館セミナー

新ひだか町静内郷土館 (0146-42-0394)

1/14 昔のおやつ体験
1/22 まちの野鳥ウォッチング~冬鳥編~
7/6~2月上旬 展示会「アイヌ植物歳時記」

【**十勝**】

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

11/12 博物館講座「帯広・十勝を描いた作家」
11/13 版画講座「年賀状を作ろう」
10/29~11/23 収蔵作品展「魂の画家 寺島春雄の世界」
11/26・27 体験教室「はく製づくり教室」
12/3・4 冬の陶芸教室「好きな陶器をつくろう」
12/17 博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
12/23 体験講座「じょうもんと腕くらべ-勾玉作り-」
1/4~31 ロビー展「凧展」

1/13~29 第29回郷土美術展
1/21 博物館講座「アイヌの人たちと動物」
2/4~3/4 ロビー展「ひな人形展」
2/15~21 後期陶芸講座修了作品展
2/18 博物館講座「生涯学習社会の中の博物館」
2/19 博物館講座「アイヌ語で動物園かんさつ」
3/17 博物館講座「大昔のとかち」

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

9/16~11/7 展示会「ウッドワン美術館名品選 巨匠たちの異変-日本近代絵画-」
9/16~11/7 展示会「美膚のみ・か・た くらべてみれば...」
11/22~2/1 展示会「開館20周年記念 北海道立近代美術館コレクションの華 シャガール、バスキンとエコール・ド・パリの綺羅星たち」
11/22~3/31 展示会「開館20周年記念 コレクションのあゆみ」
11/26 美術講演会「エコール・ド・パリ-異邦人のユートピア」
12/3・24 ギャラリー・ツアー「パリを彩った画家たち」
12/11 オビビ・キッズ・アートフェスタ
12/17 クリスマス・コンサート
1/7 ミュージアム・カレッジ①
1/14 ミュージアム・カレッジ②
1/21 キッズ・ミュージアム「お絵かき」
1/27~29 おびひろ氷まつり協賛事業
2/10~3/31 展示会「プリントアートの魅力」
2/11 バレンタイン・コンサート
2/18 ミュージアム・カレッジ③
2/25 ミュージアム・カレッジ④
3/10 技法講座
3/17 キッズ・ミュージアム「楽しいはりえ」
3/24 ギャラリー・ツアー

幕別町忠類ナウム象記念館 (01588-8-2826)

3/24 普及行事「親子でミニ発掘体験教室」

【**釧路**】

釧路市立博物館 (0154-41-5809)

11月中旬~1月下旬 特別展「私の博物館」
11/20 春探検探鳥会
11月(予定) ヤマの話の聞く会
12/28 おそなえもちをつくろう
1/13 化石レプリカ教室
1/14 雪と氷の自然観察
1/22 炭鉱映画祭
2/4・5 博物館氷まつり分館
2/12 歩くスキーで冬の温泉ハイク
2月・3月(予定) 博物館学芸員トーク
3月(予定) 化石クリーニング教室

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

11/3 ジュニア・アート・スクール2011「チャリーのドキドキ!バルーン教室」
パフォーミング・シアター2011「親子でわくわく!日本の伝統マジック『和奏』」
11/6 ヤマの話の聞く会
9/3~11/7 展示会「釧路が育んだ世界の画家 増田誠展」
11/16~1/15 展示会「山形美術館 展部コレクション 20世紀フランス絵画展~画家たちの香り立つエスプリ~」
11/30 大人の家庭科&お気楽アート教室
12/7 大人の家庭科&お気楽アート教室
12/14 大人の家庭科&お気楽アート教室
12/23 クリスマス・コンサート(施設関係保持)
12/23~1/15 冬のキッズ・アトリエ
1/25~3/25 展示会「日本を愛した写真家 土門拳 古寺巡礼」

厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)

11月上旬 文化財歴史講演会
11月下旬 太田屯田歴史講演会
3月中旬 文化財歴史教室

標茶町郷土館 (015-487-2332)

11/4~11/30 町内移動展「オンリーワンの自然をとらえる!一郷土館の研究活動」
11/16~12/16 特別企画展「しべちの遺跡最前線!!」
12月下旬~2月上旬 町内移動展「しべちのアイヌの物語」
2/19 歩くスキーで自然観察会
3月(予定) ものがたりの観察会

【**根室**】

根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)

11/11 歴史と自然の資料館講演会
2/17 学芸員講演会

中標津町郷土館 (01537-2-2190)

12/1~2/7・2/10~29・3/3~25 展示会「中標津移住100年 100枚の写真展」